

COLORFUL TOWN



カラフルタウン

——色を持ち寄るまちづくり

はじめに — 「とちの人」と「かぜの人」が“気づき”を共有する

「まちは生き物である」と、よく言われます。まちには人の生活があり、営みがあり、自然という生き物も存在します。それらのモノやコトが渾然一体となって創り出してきた風景は、そのまち固有の財産であると言えます。

一方で、「よいまちなみづくり」と言われる多くの手法は、一定のルールや規制を定め、さまざまなものがその範囲内におさまるように仕向けていくというやり方が一般的です。

しかしながら、もともとその地域で創り上げられてきた「そのまちらしさ」というものは、一定の規範に基づいて生まれしてきたものではなく、そこに暮らしてきた人それぞれの生活の営みが、時を経て表出してきたものであると言えます。ただ「そのまちらしい」風景というものは、生活や営みの一部であるだけに、そこに暮らす人々にとっては日常的な風景の中に時として埋没していることがほとんどと言っても過言ではありません。

私たちの研究会では長年にわたりまちを眺め、まちを語り、まちを創ってきた集団ですが、そのような外部の集団によっ

て埋没された「そのまちらしさ」を引き出し、読み解くことは、可能であると言えます。

そのまちに暮らす人を「**とちの人**」、私たちのようによそ者だけどもちの特徴を引き出せる人を「**かぜの人**」と呼びます。

私たちは「**かぜの人**」の目線で引き出してきたさまざまな“**気づき**”を「**とちの人**」と共有化することで、その価値を顕在化させたいと考えています。

そして、この“**気づき**”をきっかけとして、「私もこうしてみよう」という積極的な参加から新たなムーブメントが起こっていくことを期待します。

そのまちらしいまちなみづくりには長い時間がかかります。何十年とかかることも珍しいことではありません。ですが、とりあえず楽しみながら始めてみる。いつしかそれが皆さんの大きな喜びと楽しみにつながっていき、より多くの人の共感を生み出し、まちを元気にしていくのではないかと考えています。

平成 27 年 3 月

目次

- | | |
|--|--------------|
| 2…はじめに
— 「とちの人」と「かぜの人」が
“気づき”を共有する | 9…とちの色 |
| 3…あなたのまちのこと | 13…ひとの色 |
| 4…とち／ひと／まちのこと | 16…まちの色 |
| 5…暮らし／活気／安全安心のこと | 20…家からまちへ |
| 6…まちなみコード一覧 | 22…制作プロセスの記録 |
| 8…本書の使い方・コードの見方 | |



まちで見つけた、
いろいろな色。
どれも立派な
まちの個性です。

ジャジーなまち

あなたが暮らしているまちを歩き回ってみましょう。すると、人の手が入っているさまざまな景観に出会いませんか？ このことは、あなたのまちに暮らす人びとが、まちに無関心ではないことを裏づけていると言えます。それは、計画的なまちなみ景観にみられる規範や調和にのっとったものではなく、まるで、さまざまな楽器が一つの和音を奏でるジャズの演奏のように、皆さんが自発的にやられているものです。つまりこれは、あなたのまちの一つの個性を表している私たちは考えます。

色がまちを元気にする

色には生命力を呼び起こす力があります。人を元気にする力があります。壁や扉の色を塗る行為は、通り沿いに花を生ける行為にも似ていて、まちとの関わりを持つことでもあると言えます。海外では色によってまちが復活し、活気づいた事例もあります。

まちの景観を考えていく上で、住宅街や幹線道路沿いはもちろん、工場地帯なども外すことはできません。そこにはさまざまな色が溢れていることを発見することができるでしょう。たとえば産業色（注意喚起の色など）や、コーポレートアイデンティティ（CI）の色など「意味のある色」が多数見られます。

この「色」は、壁や扉などを塗る物理的な色に限ったものではありません。まちなみ景観という視点で意味を拡大解釈してみますと、それは「キャラクター」なのです。つまり、色というものは「まちの特色・特徴・個性」です。私たちは、それらまちに溢れる多彩な“いろどり”に注目しました。

とち／ひと／まち。 土地に人が住み、 いつしか街ができる。

とち

その場所や生活インフラにみられる風景や歴史

人びとの暮らしとともに織り成されてきたあなたのまちの風景や歴史は、その場所ならではの大切なまちの資源です。この資源を生かし、継承していくことで、そのまちなみが育まれていきます。

ひと

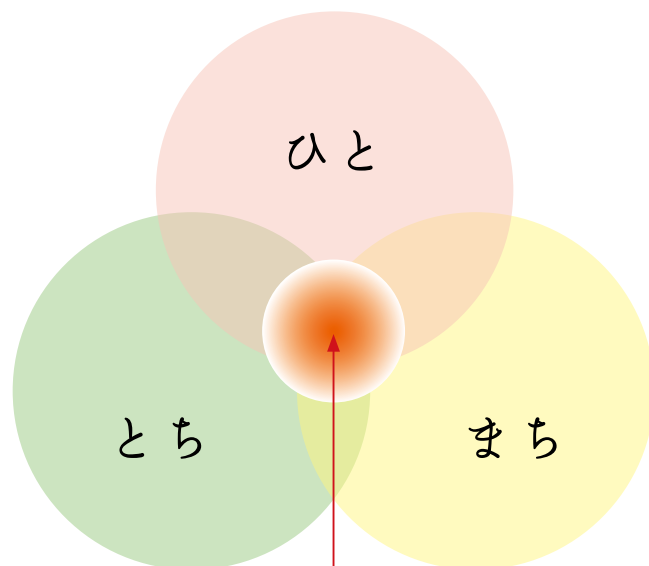
まちを元気にする個人の取り組みやコミュニティ

守り、育み、営み、そして集う。あなたのまちには、ひとの手が入った景観がたくさんあります。ひとが集まるだけで、それ自体がまちの景観にもなります。まちなみをつくっていくのは、そこに暮らす皆さん一人ひとりです。

まち

まちなみにみられる創造性や活動性

まちに溢れた“色”を探してみましょ。あなたが暮らすところから一歩足を伸ばしてみますと、工場地帯や商業施設が建つ幹線道路沿いにも、さまざまな表情が現れていることに気づくでしょう。豊かな表情をもつまちなみの背景には、暮らしや生業を楽しむひとがいます。



それぞれが「色」を持ち寄ることで
あなたのまちが
カラフルタウンになります。

暮らし

楽しもう！

あなたのまちは、そこに暮らすさまざまな人による、その土地ならではの営み（生業）やインフラにより成り立っています。暮らしを楽しむことがすべてにつながっていきます。



とち／ひと／まち。

それぞれの色が

まちの基本概念と関係する。

活気

活気づけよう！

まちはつくってもらうものではなく、あなたがつくるもの。お祭りなどのさまざまなイベントをはじめ、「楽しく暮らす」を基本とする福祉もまちの活気には欠かせません。まちを活気づければ、生活が楽しくなっていきます。

安全 安心

安心して暮らそう！

活気が出てくることで、人がまちに出てきます。すると自然に、人が見守る安全安心なまちへとつながります。災害時に共同で活動することもできるようになるでしょう。子どもからお年寄りまで幅広い世代が暮らすことができる持続的なまちになります。

あなたのまちのまちなみ景観を形成するにあたり、これら3つは普遍性のある基本的な概念です。

「色」を通じて、
暮らしを楽しむ。
活気が生まれ、
安全安心なまちへ。

まちなみコード一覧

「かぜの人」の目線で引き出した「気づき」を、とちの色、ひとの色、まちの色という分類で整理しました。ここでは、それらを総称して“まちなみコード”と呼んでいます。



とちの色



ひとの色



まちの色



とち の 色

⋮

その場所や生活インフラにみられる風景や歴史

テーマ

1. 支える。

——生活を「支える」色

コード01 鉄塔鉄美

コード02 ハイウェイのある風景

テーマ

2. とどめる。

——記憶を「とどめる」色

コード03 とちの記憶

テーマ

3. おいしい。

——こことからだに「おいしい」色

コード04 緑の恵み

コード05 まちかど販売所

テーマ

4. 流れる。

——いたるところに「流れる」色

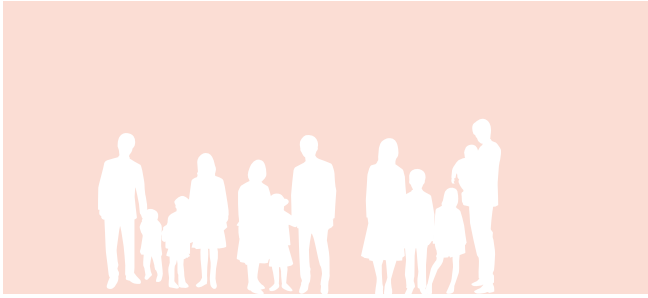
コード06 水辺のかたち

テーマ

5. 使える。

——いろんなことに「使える」色

コード07 三角地のデザイン



ひと の色

⋮

まちを元気にする個人の取り組みやコミュニティ

テーマ

1. 守る。

—ひとを「守る」色

コード01 コーショニエロー

テーマ

2. 育む。

—ひとが「育む」色

コード02 緑のおもてなし

テーマ

3. 遊ぶ。

—ひとが「遊ぶ」色

コード03 楽色ペイント

テーマ

4. 支える。

—ひとの暮らしを「支える」色

コード04 アグリカラー

テーマ

5. 惹きつける。

—ひとを「惹きつける」色

コード05 みんなの居場所

まち の色

⋮

まちなみにみられる創造性や活動性

テーマ

1. 楽しむ。

—デザインを「楽しむ」色

コード01 ストリートギャラリー

コード02 ウォールイリュージョン

テーマ

2. 誘う。

—いらっしゃい! 「誘う」色

コード03 アイキャッチャー

テーマ

3. 主張する。

—私はここ! 「主張する」色

コード04 タウン・アイデンティティ

コード05 ランドマークカラー

テーマ

4. わかる。

—はっきり「わかる」色

コード06 ビジュアルファンクション

テーマ

5. 現れる。

—いつのまにか「現われた」色

コード07 カラーハプニング

本書の使い方

本書『カラフルタウン——色を持ち寄るまちづくり』は、「かぜの人」である私たちが発見した〈気づき〉を「とち／ひと／まち」という3つのレイヤーで大きくまとめています。それぞれのレイヤーは5つのテーマによって構成され、そのテーマに対して具体的なコードが関連付けられています。

各コードは写真とキャプションにより構成されています。本書を眺めながら計画に応じてイメージを膨らませていただき、コードそのものを忠実に再現するというよりも、そこに暮らすあなたならではのさまざまなアイデアやアレンジメントが生まれることを期待しています。

コードの見方

■テーマの名称
コードが付属するテーマが冒頭に記してあります。その下にはテーマの解説文を付しています。

1 生活を「支える」色

●首都の利便性のためにつくられた巨大建造物と市民生活が織り成す風景

●コード01 鉄塔鉄美

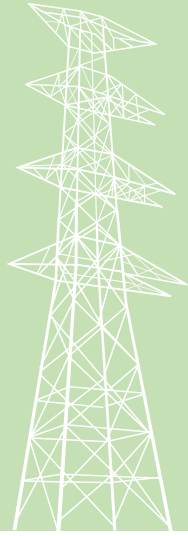


鉄塔、高速道路、工場、住宅、畑が同居する風景
電気が都会に送られていく
水路の向こうに鉄塔
住宅の向こうにも鉄塔

■コードの番号と名称
コードに付いている数字は通し番号です。名称は、特徴的かつわかりやすいネーミングとしています。

■コードの写真とキャプション
写真はまちなみのイメージを導き出す手がかりです。

とち の 色



人びとの暮らしとともに
織り成されてきた風景や歴史は、
その場所ならではの大切なまちの資源です。
この資源を生かし、継承していくことで、
そのまちらしさが育まれていきます。



テーマ

1. 支える。

——生活を「支える」色

首都の利便性のためにつくられた
巨大建造物と市民生活が織り成す風景

テーマ

4. 流れる。

——いたるところに「流れる」色

縦横無尽に張り巡らされた「水路」が
人々に潤いを与える

テーマ

2. とどめる。

——記憶を「とどめる」色

個性的な印象の街にも、
ひっそりと歴史が受け継がれている

テーマ

5. 使える。

——いろんなことに「使える」色

効率優先の都市化の
副産物「三角地」が見せる豊かな表情

テーマ

3. おいしい。

——こことからだに「おいしい」色

緑あふれる田園地帯と、その恵みを
提供する個性豊かなまちかど販売所

1 生活を「支える」色

首都の利便性のためにつくられた巨大建造物と市民生活が織り成す風景

コード01 鉄塔鉄美



鉄塔、高速道路、工場、住宅、畑が同居する風景



電気が都会に送られていく



水路の向こうに鉄塔



住宅の向こうにも鉄塔

コード02 ハイウェイのある風景



都市、地方、人、ものが交差するジャンクションシティ



まちかど販売所・畑・高速道路



とちに歩み寄る高速道路



公共建築物はやっぱりカラフルタウン

2 記憶を「とどめる」色

個性的な印象の街にも、ひっそりと歴史が受け継がれている

コード03 とちの記憶



王様(?)も眠る



とちの先人たちが眠る



とちを見つめてきた小さなお社



全員集合!

3

こころとからだに「おいしい」色

緑あふれる田園地帯と、その恵みを提供する個性豊かなまちかど販売所

コード04 緑の恵み



地元の名産、小松菜のハウス栽培



河川敷に広がる田園風景



フラワーパーク



住宅街を彩る花たち

コード05 まちかど販売所



畑の前に販売所、まさに産地直送



カウンタータイプの販売所



テーブルとイス+冷蔵庫
=サードプレイス



ログハウスの販売所、もうこれは店舗

4

いたるところに「流れる」色

縦横無尽に張り巡らされた「水路」が人々に潤いを与える

コード06 水辺のかたち



川は市民の憩いの場



用水と親水公園



民家と倉庫に「間」をつくる



水路上空を占拠

5

いろいろなことに「使える」色

効率優先の都市化の副産物「三角地」が見せる豊かな表情

コード07 三角地のデザイン



自動販売機を2辺に設置



自動販売機とベンチ



歩道と舗装を合わせて一体的な空間に



活用したいね三角地



駐車場として利用



行儀よく駐車



月極め駐車場



駐車場(屋根付き)



ベンチと緑でポケットパークに



見る庭

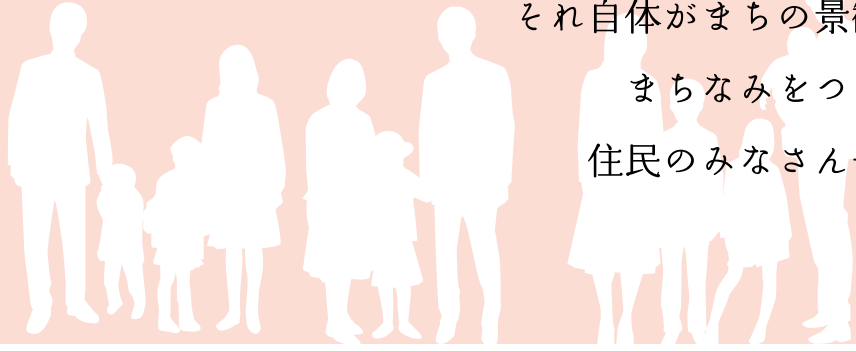


見せる庭



三角坪庭園芸 I

ひと の色



守り、育み、営み、そして集う。
まちには、ひとの手が入った景観が
たくさんあります。ひとが集まるだけで、
それ自体がまちの景観にもなります。
まちなみをつくっていくのは、
住民のみなさん一人ひとりです。

テーマ

1. 守る。

——ひとを「守る」色

注意を喚起する黄色は
市民の安全を守る

テーマ

4. 支える。

——ひとの暮らしを「支える」色

まちの生業である農業が、
まちなみに表出する

テーマ

2. 育む。

——ひとが「育む」色

住人の手間ひまのかかった緑は、
まちの成熟度を感じさせる

テーマ

5. 惹きつける。

——ひとを「惹きつける」色

まちなかのオープンスペースに、
ひとを惹きつける魅力がある

テーマ

3. 遊ぶ。

——ひとが「遊ぶ」色

住人の楽しみが感じられる色の表出が、
そこにはある

1 ひとを「守る」色

注意を喚起する黄色は市民の安全を守る

コード01 コーションイエロー



どこで切っても黄色?



リズミカル・イエロー・ドット



黄色が外に飛び出した!



オレンジバスがまちを行く

2 ひとが「育む」色

住人の手間ひまのかかった緑は、まちの成熟度を感じさせる

コード02 緑のおもてなし



路地まで使った園芸活動



みんなで収穫を楽しむ木



いらっしゃいませ!の木



コンテナは緑で隠しましょう

3 ひとが「遊ぶ」色

住人の楽しみが感じられる色の表出が、そこにはある

コード03 楽色ペイント



門柱をつたう水が滝のように流れ落ちる



無機質な基礎部分をパステルカラーで



そっけなかった鉄扉をカラフルな市松模様で



バルコニーに赤い口紅を引きました

4 ひとの暮らしを「支える」色

まちの生業である農業が、まちなみに表出する

コード04 アグリカラー



レトロなショーケース



まちを彩り食卓を彩る野菜たち



RED GREEN 色とりどりの野菜たち



ベジタブルベッド?

5 ひとを「惹きつける」色

まちなかのオープンスペースに、ひとを惹きつける魅力がある

コード05 みんなの居場所



公園と道路の接点が楽しい?



柱時計まである第三のリビング



子どもが自然に集まる玩具店



賑わう縁台ゲーム

まち の 色

まちに溢れた“色”を探してみましよう。
自分の住まいから一歩足を伸ばしてみると、
工場地帯や商業施設が建つ幹線道路沿いにも、
さまざまな表情が現れています。
豊かな表情をもつまちなみの背景には、
そこで暮らしや生業を楽しむひとがいます。

テーマ

1. 楽しむ。

——デザインを「楽しむ」色

色そのものを楽しみ、
楽しんでもらう気持ち

テーマ

4. わかる。

——はっきり「わかる」色

ひと目でわかる、間違えない

テーマ

2. 誘う。

——いらっしゃい! 「誘う」色

一度見たら忘れられない、
訪れる人の心を掴む

テーマ

5. 現れる。

——いつのまにか「現われた」色

時間と偶然のコラボレーション

テーマ

3. 主張する。

——私はここ! 「主張する」色

他とは少し違う、
思わず注目してしまう

1 デザインを「楽しむ」色

色そのものを楽しみ、楽しんでもらう気持ち

コード01 ストリートギャラリー



伝統的な日本建築の構えに
ビビッドな配色でオーナーの個性が



ストリートギャラリー



デザインを超えて現代アートへ



ガードレールもカラーコーディネート

コード02 ウォールリユージョン



端正な付まい



Yellow&Blue make Green



伝統的模様にも通じる粋な図柄



機能を色彩によって視覚化

2 いらっしやい! 「誘う」色

一度見たら忘れられない、訪れる人の心を掴む

コード03 アイキャッチャー



あでやかに口紅をさす家



空の青とのコントラストが印象的



幸福の意味を表わす色



ビビッドな配色が文字より強い

3 私はここ! 「主張する」色

他とは少し違う、思わず注目してしまう

コード04 タウン・アイデンティティ



仕事場の庇とのカラーコーディネートが絶妙



そっちが青ならこっちは赤だ!



樹木だけが“グリーン”ではない!



植栽と構造物とのマッチング



地元ではコンサバ系



建築と植物の見事な同化



レンガ、板壁、飾り窓の不思議な存在感



“Yellow Dot” Digital chart

コード05 ランドマークカラー



モノトーンとの対比が鮮やか



「地」としての存在感を持った壁面



ビビッドな色が不思議と馴染む



Green Ribon

4

はっきり「わかる」色

ひと目でわかる、間違えない

コード06 ビジュアルファンクション



ルーレットのチップのよう



C1カラーは“ブルー”



グリーン・オレンジ・グレーのナチュラルなトリコロール



液体容器としての存在感



私の住む場所。一瞬で識別できる



分別が一目瞭然



規格と色の連繋



この先に何があるのだろうか

5

いつのまにか「現れた」色

時間と偶然のコラボレーション

コード07 カラーハプニング



えもいわれぬ味わいを醸し出す



圧倒的な存在感



現代アートの領域へ



スキマグリーン

ひとつの家からまちへ

色を持ち寄ってみよう！

「一体、何をどこに持ち寄るの？」と、あなたは思われたかもしれません。ここでの「持ち寄る」という言葉の意味は、モノやコトをどこか1カ所に集めるという意味ではありません。まちに暮らす皆さん一人ひとりが「参加する」ことを意味しています。

持ち寄る
||
参加する

Hop (ホップ) 見つけよう。

わがまちのお宝さがし

日々の暮らしのなかで、まちを歩いて、観察してみよう。きっと「発見」があるはず。

そのまちらしさや、そのまち特有の表情を見つけたならば、それがあなたのまちの「お宝」。

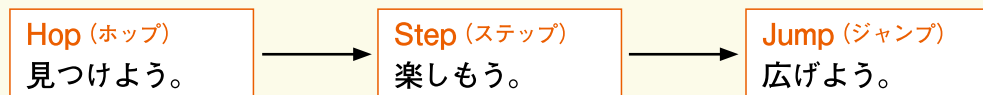
たとえば

デジカメで撮影してみよう！



家からまちへ——3段階の取り組み

はじめの一步は「ひとつの家」。楽しい取り組みは、積極的な参加へとつながります。やがて多種多様な“色”がまちに溢れ、それを皆さんが持ち寄ることで、良好なまちなみへと結びついていきます。



Step (ステップ)

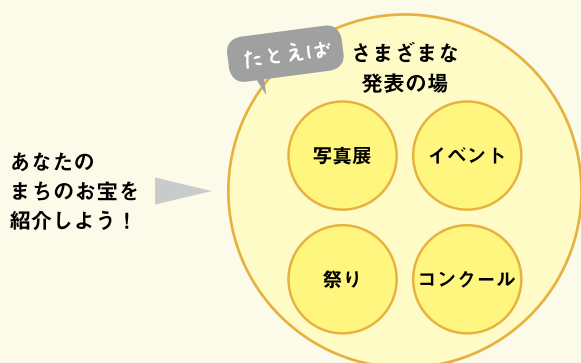
楽しもう。

わがまちのお宝発表会

あなたが見つけた「まちのお宝」を多くの人に紹介しよう。

写真展、イベント、コンクールなど、そのやり方はさまざま。

みんなで情報や意識を共有することで、何気なく見ていたものに対する見方やまちに対する意識も、きっと変わるはず。



Jump (ジャンプ)

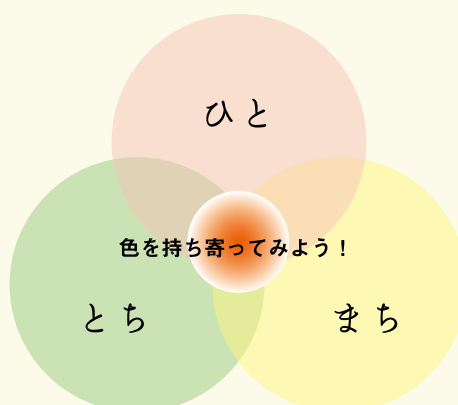
広げよう。

わがまちのまちなみをつくる

あなたのまちのまちなみは、あなた自身がつくるもの。

一人ひとりの主体的な取り組みがまち全体に広がり、積み重なっていくと、まちの魅力が深まります。

あなたが暮らすまちに対して、あなたのできることを探して、それを実行していきましょう。



制作プロセスの記録

『カラフルタウン——色を持ち寄るまちづくり』ができるまで

行政が進めていたまちなみづくり運動と並行して制作を行いました。

1. サーベイの実施

まちあるきを行い、
地域資源を確認・評価する

2011/11/08
現地視察

議論

2012/01/15
予備サーベイ

2012/01/20
本サーベイ

議論

2012/05/28、06/07
カラーサーベイ(第1班、第2班)

議論

2012/10/09
収集画像を使ったマップづくり

議論

2013/01/28、02/01
ヒアリング、カラーサーベイ
(第1班、第2班)

2014/02/09
第8回まちづくりフォーラム

第2部「プレゼンテーション②」にて
発表予定だったが天候不良により中止

2. 着目点の整理

画像をもとにした新たな気付きの発見、
および気付きのグルーピング

2014/04/14、05/29
①サーベイ収集画像を使った議論
②収集画像の分類・整理
③収集画像へのコメントの付与

3. テーマや気付きの精査

これまでの作業や議論を通じて、
地域らしさのあるコードへと昇華する

2014/07/25、08/25、10/23、12/12
①分類やコメント等の精査・見直し
②提案の検討
③ページデザイン案および文章案作成

4. 成果を冊子にまとめる

冊子という形にすることで、
誰もが理解しやすいものへと整理する

2015/01/22、02/16、03/31
①提案の決定
②最終ページデザインおよび文章の確認



2011/11/08
現地視察



2011/11/08
現地視察



2012/01/15
予備サーベイ



2013/02/01
ヒアリング
カラーサーベイ
(第1班、第2班)



2014/04/14
サーベイ収集画像
の分類・整理



2014/12/12
ページデザイン案
および文章案作成

一般社団法人 住宅生産団体連合会
まちなみ環境委員会

委員長 鍵市恒成（兼六土地建物株式会社）

委員 南谷和秀（ミサワホーム株式会社）
山田富治（パナホーム株式会社）
穂本敬子（積水ハウス株式会社）
中郡孝一（大和ハウス工業株式会社）
鶴見慎一（グローバルホーム株式会社）
辻村行雄（一般社団法人日本ツーバイフォー建築協会）
野村俊哉（積水化学工業株式会社）
飯山道久（一般社団法人 日本木造住宅産業協会）

分科会主査 上井一哉（積水ハウス株式会社）

オブザーバー 山中秀実（積水ハウス株式会社）
松岡俊一郎（一般財団法人 住宅生産振興財団）

主催者 小田広昭（一般社団法人 住宅生産団体連合会）

事務局 矢口 博（一般社団法人 住宅生産団体連合会）

一般社団法人 住宅生産団体連合会
まちな・み力創出研究会

主査 上井一哉（積水ハウス株式会社）

指導委託 渡 和由（筑波大学芸術系 准教授）

委員 稲葉 修（三井ホーム株式会社）
井野善久（大和ハウス工業株式会社）
大谷宗之（株式会社ミサワホーム総合研究所）
蓮見正也（住友林業株式会社）
高橋朋幸（パナホーム株式会社）
塚田 誠（旭化成不動産レジデンス株式会社）
内田雅人（積水化学工業株式会社）

委託編集 佐藤雅夫

事務局 矢口 博（一般社団法人 住宅生産団体連合会）

カラフルタウン

——色を持ち寄るまちづくり

一般社団法人 住宅生産団体連合会
まちなみ環境委員会＝監修
まちな・み力創出研究会＝編
試行版

◎発行
2015年3月27日

◎発行元
一般社団法人 住宅生産団体連合会
〒102-0085 東京都千代田区六番町3番地六番町SKビル2階
TEL.03-5275-7251 FAX.03-5275-7257

本書の無断複製・転載を禁じます。

